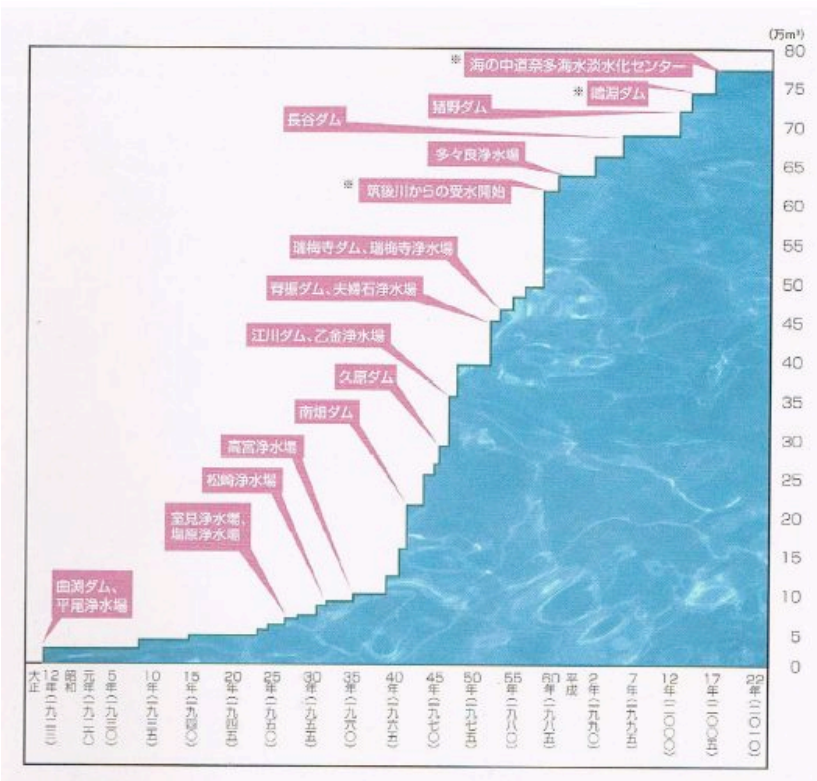
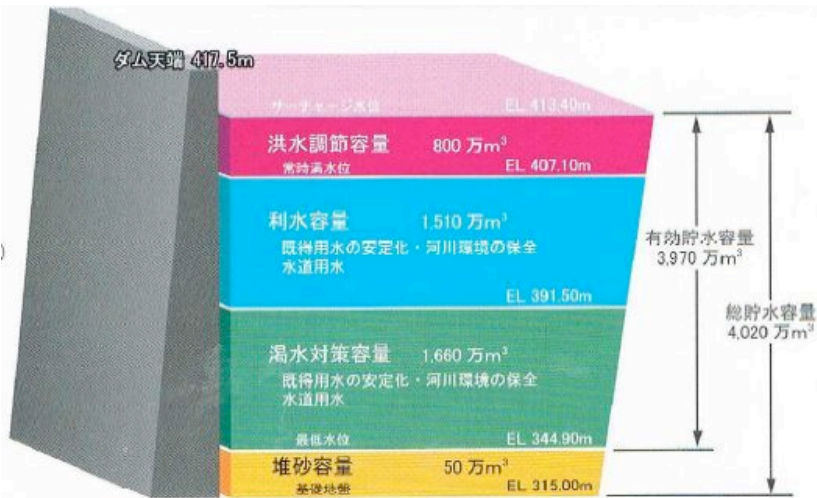


8. 際限ない水需要を求める「五ヶ山ダム」！

1) 水は足りている



福岡市は 1978 年(昭和 53 年)、気象台開設以来 89 年ぶりの大干ばつにより、287 日間の給水制限が行われるという大渇水にあいました。当時の施設能力は日量 47.8 万トンでした。

その後、1998 年(平成 10 年)筑後川から導水が始まり、長谷ダム、猪野ダム、鳴瀬ダムなどができ、2005 年(平成 17 年)には海水淡水化が始まり、施設能力は日量 76.45 万トンになりました。昨年筑後川水系の大山ダムが完成したことで、これまでの日量 76.45 万トンから日量 77.7 万トンへと供給能力が上がりました。

多くの方は福岡市の水は足りないと思っていると思います。しかし**実際は、水は余っているのです。**

施設能力(取水可能な量)は日量 77.7 万トンです。大渇水時を想定して安全係数 60%を掛けても 46.6 万トンの水を供給することができます。

福岡市の水道水の供給量は平均 1 日 40 万トン、最大でも日量 45 万トンです。

この 10 数年間、福岡市の人口は増えていますが水使用量は増えていません。また、福岡都市圏の水供給も 10 年間それほど増えていません。福岡市の人口は推計では 2035 年まで増え 160 万人になるとしてありますが、福岡都市圏では 2030 年をピークに人口減少が始まります。

福岡市で人口が増えているのに水需要が頭打ちになっている理由は、1978 年の大渇水を受け、節水ごまの設置など、市民の節水努力にあります。一人当たりの 1 日の使用量は 300 リットルで、全国的に見て極めて少ない量です。また、再生水利用は日本一、

雨水利用も日本で指折りの利用です。福岡市ではヤフードームや博多シティ（博多駅）など大規模施設が建設されていますが、これらの大型施設は水道から雨水利用や再生水利用、地下水利用に切り替えています。

加えて、2012年から北九州市から福北導水管により、宗像市、福津市、古賀市、新宮町に給水が始まりました。この給水は福岡市東区にある下原配水池にいったん受け入れられ、そこから配水されます。福岡市は1978年の大渇水の教訓から、市内全域の配水管を接続して市内4ヶ所ある浄水場の水を必要に応じて融通できるシステムを作っています。このシステムを運用することで、緊急時には北九州からの給水を福岡市も利用できます。

このような状況で、従来どおり節水に取り組めば、渇水対策のダムはこれ以上必要ありません。

2) 財政問題から見た五ヶ山ダム

福岡市の人口は2035年をピークに減少に転ずると見込まれており、水道事業は、水需要の頭打ちないし微増で、料金収入も頭打ちないし微増の状況です。近い将来には料金収入が減少すると考えられます。1978年の大渇水後、筑後川導水事業、ダム建設、市内の浄水場連携システムの整備、海水淡水化施設建設などで多額の費用を費やし、その結果水道が料金に跳ね返っています。

水道料金（家庭用13mm基本料金）	
1978年	280円
2014年	892円
水道事業借入残÷料金収入	
福岡市	4.4
政令市平均	2.2

※左表のように、大渇水後の設備投資により福岡市の借入残高は他都市に比べ大きくなっています。水道管などの給水施設や浄水施設の老朽化に対する維持管理費用が今後継続的に発生する一方、近い将来には料金収入が減少すると考えられる状況で、水道事業はますます厳しくなっています。

五ヶ山ダム総事業費1050億円のうち、福岡市負担は368億円、竣工後、維持管理費等に約9億円が必要とされています。財政的視点から見たとき20年から30年に1度の渇水のために、このようなダムが必要でしょうか。むしろ雨水利用や再生水利用を進めるために助成した方が経済的でありかつ環境負荷が少なくてすみます。

2009年に民主党政権になり全国のダム見直しが行われ、五ヶ山ダムも見直しの対象になりました。福岡県は実態とはかけ離れた右肩上がりの福岡市および都市圏の水需要予測を捏造し、事業を継続としました。この見直しについて国の委員会でも疑問の声が上がっていました。福岡市も追認し、事業が進められた経緯があります。実態とはかけ離れた水需要予測で不要なダム建設を進めた市および議会の責任は重いと言えます。

3) 水没地域には佐賀県天然記念物が！

五ヶ山ダムの用途に、洪水対策が上げられますが、実際は渇水容量の貯水能力にも問題があり、洪水対策にも役立たないダムです。

2010年に那珂川町で起こった洪水は内水面洪水で、平地に降った雨がうまく那珂川に流れず溢れたことにあります。福岡県では緊急洪水対策として、那珂川の川幅を広げ、河床を掘削し、配水能力を高める工事を行い、洪水に対応できるとしています。



また、五ヶ山ダムは南畑ダムの直上にでき、集水域が重なります。図のように山頂部分の集水域は狭く、水がたまりにくいダムです。洪水対策にも治水対策にもそれほど役に立ちません。

五ヶ山ダム水没地域には佐賀県天然物に指定されている夫婦杉や筑前国と肥前国の国境を記した国境石があります。これらの文化財を水没させ、自然を破壊し、居住者の生活を破壊してまで建設する必要があるダムではありません。必要が無い五ヶ山ダム建設は、直ちにやめるべきです。

4) ダム問題と原発問題に共通する根源的問題：都市膨張政策の考え方が間違っている！

ダム問題も原発問題も、問題の根源は同じです。人類の快適さ・便利さを追求するあまり、自然を破壊し、生態系を乱し、将来世代に負の遺産を残してしまいます。快適さ・便利さはほどほどにとどめて、後世に持続可能な環境と社会を残すために、今こそ都市膨張政策を改めるべきなのです。